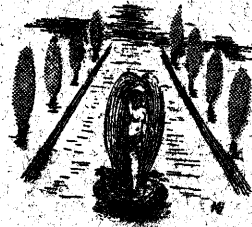


## 映 畫

菊 池 眞 一



およそ筆の立たぬ私に隨筆を書けという編集者の無理な御註文である。無理なことと申せば今まであまり映畫を見たことのない私が、近年映畫ことに天然色映畫に關係をもつようになつたことだ。寫眞や映畫は藝術であつて審美的感覺にとほしい散文的な私にはあまり適していると思えない。寫眞感光機構というものを研究し寫眞に關する理窟をこねているが、寫眞を撮るとプリントは合うけれども繪らしいものができないことは研究室の方々がよく知つている。映畫はしかし見ていて楽しいものである。たゞ技術検討でコントラストがどうの色がどうのと思つているとキャストの方がお留守になつてしまふ。技術的なあらさがしが商賣の私ばかりでなく日本人一般に映畫に對する批判眼は相當高く、採點はなかなか辛いようである。その日本の批判家がアメリカのテクニカラーに飽かされているところにはじめて國産の天然色劇映畫「カルメン故郷に歸る」が松竹から封切りされるのだから喧々轟々たるところは今から想像される。アメリカから最近歸られた寫眞學會の會長西村氏の話によればアメリカ人は實に楽しんで映畫を見るそうで天然色の色の調子が悪くても案外平氣だそうだ。日本にきたアメリカの天然色映畫は相當よいものが選ばれているのかも知れない。その點牛原盧彦氏に伺つたフランス人の映畫に對する觀賞眼は大したものである。つまらない場面が出ると口笛を吹き足を踏みならし、ついに一人去り二人去つてくつと閑散になつてしまふという。そういう大衆の批判眼があればこそフランスのよい映畫ができるのだらう。フランス人は決して眞似をしない。世界を風靡する天然色時代、しかもオートクロームという天然色寫眞の元祖ルミエール兄弟を出した國が今も落着いて

白黒の映畫をせつせとつくつていゝ。フランス映畫はあまり金がかまつていない。田園交響樂を見てもつくづくそう感じる。以て貧乏な日本映畫の範とすべきである。フランスで一昨年 Roux Color という天然色の一方法が發表された。加色法で35ミリフィルムの一齣にプリズム装置で4つの畫像をつくり、青、綠、赤の3つのフィルターおよび無フィルターの組合せである。映寫する時もこの同じ光學系を通して寫せばよい。この方法は何等化學的な處置が必要でないところが長所であるが、特殊なカメラと映寫機を要する點で普及性がない。

アメリカ合衆國は映畫のスケールも大きい。1947年において映畫産業に投資した資本26億弗、これに關係する人員20萬人である。邦貨換算1兆圓で驚くべき巨額のようなが、スタンダード石油會社一社の資本金に匹敵するから工業ことに生産工業は巨大な資本を必要とすることがわかる。

さてアメリカの天然色映畫はテクニカラー全盛であるが、しかしシネカラーその他の方法が次第と勢力を得てきているようである。テクニカラー法は赤、綠、青紫3本の分解ネガからポジをつくり、これから色ポジをつくつて一本のフィルムベースの上にあたかも印刷のように3色を轉寫するので、一本のフィルムをつくるには11本のフィルムベースを必要とする。アメリカのように200本も300本もポジをつくる國ではこの最初にいるフィルムベースの消費も吉にならないだらうが、日本のように20~30本しかポジをつくらぬ國では經濟的に成立たない。これが日本では多層式が採用されテクニカラー方式が用いられぬ主原因である。シネカラーはポジの裏表から燒付けさらに第3の版をその一方に重ね燒

付けるもので3色分解ネガから燒付けると4本のフィルムベースがあればよいのでテクニカラーにくらべて經濟的であつて、さすがアメリカでもこの安價なところが買われるらしい。シネカラーによる映畫は占領軍の映畫館には時々きているがまだ私等は見ることがない。アメリカのデュボン社は一昨年未合成樹脂のエマulsionを作り、ゼラチンを使用せずして3色に感じるハロゲン銀をその中におき、發色現像を行つて天然色ポジタイプをつくることに成功し市販しはじめた。ゼラチンを使用しない乳劑であること、合成樹脂が擴散防止の役をしているという點が從來のものと同じである。まだポジタイプ程度の感度しかないようであるが將來が期待される。アメリカではイーストマンコダック社が寫眞については先輩で同社はアセチルベースの完成を誘つているがデュボン社はいくらにコダック社の模倣をせず合成樹脂を利用することを心掛けていた。

イギリスとイタリーは戦後映畫國策に力を入れて、立派な映畫を出して外貨を獲得している。イギリス映畫の赤い靴は現在までの天然色映畫でもっとも色の美しいものである。ソ連も映畫に力をそましている。最近力作が輸入されないがシベリア物語は今なおその好ましい色調が思い出の種となつていゝ。天然色映畫も昨年1億フィート製作する計畫であつてこれは日本の全映畫フィルム映數を凌駕している。

一寸想像外なのはインドの映畫製作高で1949年の製作本數は250本でこれは日本の150本よりはるかに多い。このほかに300本輸入している。映畫館も1900におよびインドの人口の多いことが現われていると思う。日本からも生フィルムが輸出されている。